



メジャーリーグに挑む！ ②

マイナーリーグ2年目で、突然の解雇 新天地・信濃グランセローズ(BCL)へ

中村尚史 投手(2010年卒)

の闘い



マイナーリーグ2年目を迎え、勇んでキャンプ地のアリゾナに旅立った中村尚史投手に、冷酷にも告げられたのは戦力外通告だった。インディアンスのチーム方針とはいえ、傷心のまま帰国、一時は目標を失い、野球を諦めかけた。しかし、プロ野球選手への夢は捨てきれず、独立リーグに新天地を求めた。メジャーへの大きな夢は遠のいたが、中村投手は引き続き夢を追いつける。

(聞き書き・構成 編集長 伊藤博)

① 2年目のキャンプへ

去年の9月27日に日本に帰ってきて、半年近くオフを過ごして、今年3月6日に2年目のスプリングトレーニングに向けて、インディアンスのマイナーリーグのキャンプ地アリゾナに旅立ちました。

オフの日本での練習もすごく充実していたので早く投げたかったし、去年1年目でマイナーのショートシーズンからローAにあがって、さらに次のハイAから2Aを目指すという目標ができて、今年はいけると思っていたので、すごく楽しみで

した。

アリゾナに着いて、キャンプインして、チームの振り分けがあるんですが、自分は初めローAでやると思っていたんですけど、振り分けでハイAに入っていたんです。去年のシーズンが終わったときより、ひとつステップアップしていたので、去年の成績も評価されたんじゃないかと思いました。

それでハイAの練習試合で3試合投げて、監督にも「このままでいけ」と言われて、褒められたので、手ごたえはあったんです。それにハイAのまたひとつ上の2Aの練習試合に1回呼ばれて



3月6日、2年目のキャンプに旅立つ成田空港で

行って、1イニングを0点に抑えたんです。だから、何かウキウキっていうか、毎日楽しくてしようがなくて、早くシーズンに入りたいと思っていました。

② 突然の戦力外通告

それが3月26日。日本時間では27日です。朝6時くらいに球場に入ってトレーニングをしていたんです。自主練習していて、着替えて、朝ごはんを食べようと思って、トレーニングルームから自分のロッカールームに戻るときに、球団職員の人に、「こっちにきて」と言われて部屋に入れられたんです。



マホーニングバレー チームメイトと(ニューヨーク、ブルックリンで)

です。「ジョークじゃないよ」って言うても、向こうは軽く流していたんです。それで自分が日本に帰る準備をし始めたら気づいて、「マジで、本当に？」って。「さっき言っただろ、本当だよ」って言うたら、「あつ、ごめん。でも成績良かったのになんで？」って言われて、「俺も分かんない、年齢のことを言われた

し、インターナショナルプレーヤーだからって言われた」って言ったんです。そしたら、そいつが「ふざけんよ」って……。

① 「考えられない」とスカウト②

両親にですか？はい、電話しました、すぐに。日本時間で夜中の2時です。電話したらお母さんが出て、「ああ、そう……」って。「まあ、しょうがないじゃない。帰ってきなさいよ」と、わりと冷静に言ってくれたんですが、でも日本に帰ってきたら、「あんたが一番つらいのに、私がどうかしたらいけないと思ったから。でも、私だって本当は泣きたかったのよ」と言われて、それはきつかったですね。

高橋善正監督にも電話しました。監督も驚いて、「なんでだ」と言われて、その理由を言ったら、「ええっ？」ってなって、「まあ、しょうがないな」と。自分をインディアンズにスカウトしてくれたスカウトにも電話したら、やっぱり驚いていました。自分のスプリングトレーニングのレポートがそのスカウトに毎日届くそうなんですが、「全部良かったし、いいレポートだったのに、(リリースは)考えられない」と言われました。

それで翌日、朝の早い飛行機に乗ったんですが、機中も真つ白ですよ。悲しかったですね。アリゾ

その部屋にファームの偉い人が3人いて、「明日、日本に帰ることになった」と言われたんです。「明日の朝5時に飛行機とつてあるから、それで日本へ帰れ」って。はい。いきなりです。理由を聞いたら、「インターナショナルプレーヤーはコストがかかる」と。それと「若い選手を育てたい」って言うんです。自分は23歳じゃないですか。ドミニカの選手とかは16歳がいますからね。それで150キロ投げれる。だからかと思いました。

その瞬間ですか？真つ白ですね、真つ白です。もう何もありません。悲しいとかもない

し、もちろん嬉しいはないですけど、真つ白ですね、本当に。体から何か抜かれた感じです。何かふわふわした感じですね。

ロッカーに戻って、仲がいいチームメイトの顔を見ると悲しくなってきました。一緒に野球をやってきた同じ部屋のデニーっていう仲が良いチームメイトに、「どうしたの？」って言われて、「リリースされた」と言ったら、そいつがすぐ泣いて。それでやっぱりさみしくなりますよね。

他の友達にも「リリースされた」と言ったら、「お前、ジョークだろ」と笑いながら言われたんです。「ジョークじゃないよ」って言うても、向こうは軽く流していたんです。それで自分が日本に帰る準備をし始めたら気づいて、「マジで、本当に？」って。「さっき言っただろ、本当だよ」って言うたら、「あつ、ごめん。でも成績良かったのになんで？」って言われて、「俺も分かんない、年齢のことを言われた

ナからロサンゼルスに行くときは本当に悲しかったです。

④野球を諦めかけた日々④

3月28日に日本に帰ってきて、その日のうちにインディアンスのスカウトに会いました。スカウトに「ごめん。インディアンスの方針はちょっとおかしい」と言われて、「でも野球は絶対に続けたほうがいい。俺も探すから」と言ってくれたんです。

去年ピッチングを見てもらったことがある山下大輔さん（元プロ野球選手・監督）にも電話したら驚いて、「あのピッチングをすれば日本のプロでも通用するよ。だから、今辞めちゃうのはもったいないから考えたほうがいい。いろいろな選択肢があるけど、もしプロでやりたいなら独立リーグがあるよ」と言ってくれて、いろいろな情報をいただきました。

ただ、そのときはちょっと考えられませんでした。本当に弱っていたんで。日本に帰ってきてからは、もう野球はできなくなると思って、苦しかったです。あのときは「野球をやれ」って周りから言われるのが苦痛というか、もう嫌で……。親父や母さんにも「野球頑張れよ」と言われるのがきつかったので、なるべく野球の話はし

ないでくれと言っていました。

④中大・高橋監督の温情④

それと帰ってきてすぐに中央大学に高橋監督を訪ねました。そのとき監督さんに、「社会人チームに行け」って言われて。「広島にあるチームだから」と言われたんです。

自分は小さい頃からプロ野球選手になりたくて、野球をやってきたじゃないですか。自分ではプロにならないと意味がないと思っていたので、監督さんに「やっぱり自分はプロ野球選手になりたい。年齢的にも、早く勝負したい」と言いました。したら監督さんは、かなりお怒りになりました。はい。監督の指示に反したんだから、仕方ないです。いったん帰って、いろいろ考えても、やっぱり野球に集中したい。今年は野球一本でやりたい。それだったら独立リーグだと考えたんです。そう決めたら、それまでへたっていたのが、よしやってやろうって、モチベーションが上がってきたんです。

それで、思い立って監督さんに自分の考えを言いに、中央大学の硬式野球部の寮に行っただんです。「独立リーグでやりたい」と言ったら、監督さんは「そうか。まあ、お前が決めたなら、しようがねえな」って言われたんです。でもその言



アメリカで一番初めに出来た友達 英語を教えてくれた人

い方から、監督の怒りがひしひしと伝わってきた。これまでに見たことがないほどだったので、本当にめちゃくちゃ怖かったです。でも、自分はもう決めたんだと思って、「明日、（中大グラウンドに）練習に来ていいですか」って聞いたたら、監督は「いいよ」とあっさり言われたんです。それで、次の日グラウンドに行ったら、監督さんが独立リーグの長野県チームのテストを受けさせてくれるように手配してくれていたんです。

それはびつくりしましたね。前の日、あんなに怒っていたのに、次の日はもう後腐れなしで、練習に行ったら「おお、おはよう」と言われて、あれっ

と思つて（笑）。「練習してコンディションを整えてから、信濃グランセローズのテストを受けに行け」と言われて、「はい」って答えました。

監督さんが自分の希望を入れてくれて、ありがたくて、本当に嬉しかったです。というか、監督さんは「すげえな」と思いました。器がでかいというか、懐が深いと思いましたが、本当に。

① 信濃グランセローズと契約 ②

それで長野に行つて、5月1日にトライアウトしたんです。すぐに信濃グランセローズ（平成18年創立の長野県民球団）と契約ができて、2日には選手登録されました。佐野（嘉幸）監督からは「頼むぞ」って言われました。必要としてくれてるんだと思つて、よしやつてやる、という気が一層強くなりましたね。

プロ野球独立リーグのBCリーグというのは、群馬、新潟、長野（以上、上信越地区）と富山、石川、福井（以上、北陸地区）の6チームによるリーグ戦（前後期の2期制）で行われています。最終的には地区の優勝チーム同士がプレーオフを行つて、リーグ優勝を決めます。

選手たちは、みんなNPB（日本野球機構）やメジャーリーグを目指しているんです。レベルは高くて、自分のチームの信濃グランセローズの佐野監督はロツテで2軍監督、コーチをやっていた人だし、猿渡（寛茂）コーチはヤクルトで2軍監督をやっていたんです。

選手の中にも元プロ野球の選手がいます。金村（暁）さん（元日ハム、阪神の投手）とか竜太郎さん（元オリックス、楽天の外野手）とか有名な選手がいて、他のチームにもヤクルトで抑えの投手として活躍され、メジャーにも行かれた高津（臣吾）さんがいたりで、レベル高いなと思いました。

高津さんは本当にピッチングがうまいです。見ていて勉強になります。金村さんはそんなに球は速くないのに抑えるのを見ていて、すごく勉強になりますし、面白いですね。見るのが一番いいです。絶対に勉強になりますね。

5月2日に選手登録して、初登板は次の日の3日でした。佐藤監督から「投げられるか」と言われて、「はい、投げます」と言つて、あまりコンディションは良くなかったですけど、2回を0点に抑えました。しばらく実戦で投げてなかったので、フォアボールを2個も出して、球は140キロくらいしか出なかつたです。だけど、結果が良かったので、そこはあまり気にしなくていいやと思えました。

③ 日米の違い ④

自分のピッチングスタイルは、インディアンズのマイナーで1年間過ごして、はつきり分かつたんです。

日本とアメリカでは、ピッチングスタイルが違つていて、アメリカ人は160キロのストリートでパンパン押していくピッチャーが理想なんです。アメリカには155キロくらいのピッチャーなんか何人でもいます。

日本でよく言われるのは、変化球のコントロールで、自分たちは大学でそれをずっと練習していたじゃないですか。だから、結構アメリカのバッテリーに通用するんです。盲点というか、そういうコントロールの良いピッチャーは少ないです。アメリカでは、そういうピッチャーはダサイという感じなんです。力で立ち向かうのが格好良く、球は遅くてもコントロールが良いという技巧派ピッチャーは、格好悪いみたいなイメージなんです。

でもピッチャーは、格好良くなくても抑えればいいじゃないですか。そういう野球で自分は育つて来たというか、それを中大で高橋善正監督に教えていただいたので、アメリカに行つて、本当に手ごたえがあつたんです。これなら、勝てる、行

けるかもと思ったし、この方向で野球をやっているけば大丈夫だと思いました。

④ピッチングスタイル④

昨年、インディアンスのマイナーで1シーズンを過ごし、自分のピッチングの方向性が見えてきましたね。ピッチングはコントロールで抑える方向で行けば間違いないと思つています。アメリカでみんながスピードピッチャー、パワーピッチャーということを考えているなかで、球は遅いけどコントロールを磨いていって、みんなとは別の方向、視点から見た野球をやつていけば、いけるのではないかとという手ごたえを感じました。

自分は昨シーズンに、スピードが最速で152キロ出るようになったんです。でもアメリカでは「まだお前のストレートはチェンジアップみたいだな」って、ふざけてよく言われました。変化球ばかり投げるので、そう言われたんですが、でも何を言われようと、抑えているんだからいいじゃないですか。そう思つて、あまり気にしなかつたです。

逆に嬉しかったですね。中大で、高橋監督に「お前はスピードピッチャーじゃない。お前は変化球のコントロールを磨かないと試合に使わないぞ」



と耳にタコができるくらい言われていましたから。中大でやつていた野球をアメリカでやつてみて、高橋監督、すごいこと言つてたんだって(笑)。本当に、そう思いました。

中大で高橋監督に教つて良かったな、とそのとき思いました。監督さんの言つていたことは正しいんだって。大学の現役のときは、それがわからずに、チクシヨウと思つていましたけど……(笑)。高橋監督に言われたことが一番です。それは絶対に変わらないです。監督つて本当にすごいですね。卒業してみると分かります。

⑤目標はプロ野球入り⑤

今一番気にしているのは、ピッチングの調子が悪くても悪いなりに0点に抑えるという、その

スプリングトレーニング ユニフォーム

内容ですね。調子が悪くてフオアボール出して、それで勝つてもピッチャーとしては駄目だと思ふんです。だから数字の成績はあまり気にしていません。三振が何個取れたとか、何勝できたとかはあまり気にしませんです。

信濃グランセローズのチームの雰囲気はすごくいいです。楽しいですね。野球に集中できるので、それが一番です。それが一番楽しいです。

自分のニックネームですか？みんなから「ジャンボ」って呼ばれています。「馬場」とも呼ばれます。でかい(身長194センチ)ので、金村さんがつけたんです。今は自炊しているので、金村さんからも「飯食に行こう」と誘われるし、そういうのがいいですね。

チームメイトもみんな面白いですよ。みんな野球がすごい好きなので、練習は熱いです。今シーズンの目標はリーグ優勝です。地域密着のチームなので、長野県のみなさんがすごく応援してくれて、それにこたえるために優勝したい。ですけど、正直に言うと、自分の技術を向上させて、プロ野球に入る事が一番の目標です。いまはやるっきゃないです。(完)